

で〜ね〜BOOKS 2016

で〜ね〜BOOKSとは、岡山の高校図書館による 高校生向けのおすすめ本 コンテストです。

図書館には多様なジャンルの本があることを知ってもらいたい！という願いから、小説以外の本を選考対象としています。

岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会が主催して毎年実施しており、今回が第3回目となります。

大賞

鉄道デザインの心 世にないものをつくる闘い 水戸岡 鋭治 / 日経 BP 社



著者からメッセージをいただきました！

読書が苦手な私が、意外にもこれまで何回か出版の機会をいただきました。その中で、これが最後と思いきって過激に語りつくした本です。こんなジヤイサンの横顔をアップにした表紙の本を若いひとたちが手にとってくれるのか……ありえないシーンでしょうが、受賞は大変光栄です。

とにかく勉強ができなくて、絵を描いて生きていくしかないと早々に覚悟を決めていました。鉄道の仕事を始めたのは意図してではなかったのですが、イラストやデザインの世界の一隅で働きつづけられたのは、一片の迷いもなくそこにしがみついていたからです。

振り返って、自分の本当に好きなこと、本当に好きなひとを見つけことが青春のすべてであると私は思います。大好きな道をまっすぐに行くかぎり、途中で出あう理不尽や大失敗や疎外感や劣等感さえも、いつか過ぎ去った車窓の一風景としてなつかしく思い出すことができるからです。

だから、皆さん、どうか全力で好きな道を見つけてください。

水戸岡 鋭治

【おすすめコメント】ひとつのものを作り上げていくときに、どれだけ目に見えない心配りがなされているかを、あらためて考えさせてくれる本です。鉄道ファンでなくても楽しめると思います。／自分を確立するために人生があって、仕事や勉強はそのためのもの。人生を「なんとなく」で過ごさないために、ぜひ読んでみてほしい一冊。／1つの仕事論・あるいは「ななつ星」秘話として読むのも良いだろう。社会に出る前に心構えを学ぶのにも、地元の有名人の読み物として読むのにも良い。／岡山出身の水戸岡氏のデザインや仕事に対する思いが述べられており、新しいものを創りだす力や方法について考えさせられます。／あきらめない心と、細やかで絶え間ない工夫。列車にますます乗ってみたいくなるし、仕事に対する向き合い方について刺激をもらえる本。／語られているのは仕事への取り組みだが、それはそのまま著者の生きる哲学である。限りない情熱を持ちつつ、しなやかに生きる姿に憧れる。／辛口の表現もあるが、利用者のことを第一に考え、妥協を許さず盾突く姿勢に最後はこの人はかっこいいと思ってしまう。／誰のためにものをつくるのか。そこをブレずに仕事をする姿勢に頭が下がります。／たくさんのデザインを手掛けているベテランの著者でさえ、完成するまでこんなに苦労があるのだと思いました。その分思いもあり、まさに「心」が詰まっている一冊です！

／働くとはどういうことか。将来「給料をもらうためだけの仕事」なんてしたくない人は、ぜひ読んでほしい。／最近では「ななつ星」で有名な水戸岡鋭治さん。デザイナーの仕事は優雅なものではない。完成に行き着くまで、色んな闘いがある。私たちは完成した物しかわかりませんが、経緯や想いに驚かされる。ものづくりのすごさや面白さが書かれてあり、読み終わった後は視野が広がるほど、まさに心が垣間見られる一冊！！2020年の東京オリンピック。こんな素晴らしい方たちの活躍が見たいと個人的に思った一冊でもありました。／これから日本を背負っていく若者に読んでおいてほしい一冊。自分の頭で考えること、人に伝えること、質の高い仕事をする。言われたことをそのままこなして満足する大人にはならないで！

2位

あっ！命の授業

ゴルゴ松本 / 廣済堂出版

親しみやすい人が親しみやすい文章で、心に残ることを書いてくれています。普段あまり本を読まない生徒も手に取って読んでいます。／落ち込んだ時に読みたい。日本語ってすごい。／言葉の国の素晴らしさを独自の漢字を使った授業で伝える。／毎日目にする日本語や漢字に、あっ！という気づきを感じさせてくれる、目からウロコな本。／日本語や漢字の素晴らしさを感じてほしい。／綺麗ごとばかり言って…と思いましたが、読み終えると元気にになりました。疲れた時の心の処方箋にピッタリです。／日本人に生まれて良かった！日本語が愛おしくなります。／漢字の不思議な力に元気と勇気をもらえます。／言葉や漢字がぐっと身近になる。漢字に秘められた意味が楽しく分かり、なるほどと思わせる面白さもある。毎日に、これからの人生に、覚えておくときっと生きる力になる。



3位

若者から若者への手紙 1945←2015

落合 由利子, 室田 元美, 北川 直実 / ころから

自分たちと同年代で戦争を体験した方々へ、自分たちならどんなメッセージを送るのか、考えながら読んでみてほしいです。／太平洋戦争について考えるきっかけに最適だと思います。戦争体験は本当に十人十色で、ちょっと知ったくらいで解ったつもりになってはいけないうけかかせてくれます。／今の「普通の暮らし」は10年後も「普通」だろうか？戦争は日常の延長線上にある。／現代の若者と先の大戦時代に若者だった人々を結んだ戦後70年にふさわしい一冊。／70年前の若者が、現代の若者に、戦争の一端を語ってくれます。歴史的に戦争のあった事実だけでなく、そこに生きた人の話にぜひ耳を傾けてほしい。／戦後70年も経つと、身近な人から戦争の話や戦争の話を聞こうにも聞けなくなってしまう。1945年の証言を伝えてくれる大事な本。／青春時代が戦時中だった。そんな方々の声を聞き、あなたならどんな手紙を返しますか？／終戦当時20歳前後だった戦争体験者の手紙に現代の若者が返事を書く形式なので、戦争をどう受け止めたらいかが分からないという人にもチャレンジしやすいと思います。一口に戦争体験といっても職業や場所によってひとりひとり全然違って、歴史用語を学ぶだけではわかったことにならないんだと実感させられます。気軽に読める本ではないですが、いつか興味を持ったときのために、この本のことを覚えていてほしいと思います。／1945年に若者だった15人の人々が、当時の苦しく辛い記憶を語ります。そして2015年を生きる若者が、その方々へ手紙を書きます。被害者としてだけでなく、加害者とならなければいけなかった人々の話も、目をそむけずに読んでほしい。



ノミネート作品

10代からの情報キャッチボール入門

使えるメディア・リテラシー

下村 健一 / 岩波書店



今の時代にとっても必要な知識が詰まった本。／この本を読むと、ネット利用の際の留意点について、知っているようで実は認識不足だったと痛感する。高校生にもぜひ薦めたい。／情報を発信したり、受け取ったり、が簡単にできるようになった現代。情報の一部分から何が見えるのか、そしてそれだけを情報のすべてとして鵜呑みにしてしまわないために…。上手な情報キャッチボールを目指そう！／もしかしら勉強や部活の時間よりもメディアに接している時間の方が長いかもしれないのに、「情報」との付き合い方は誰も教えてくれない。著者が自分の身に起きた事や実際にあった事件を例にメディアとの付き合い方を噛み砕いてじっくり説明してくれています。手軽に情報をやり取りできる時代だからこそ、読んでおいて損はない本。／インターネットを使う前に、ぜひ読んでおいてもらいたい。／私達は情報を受け取る側だけでなく、発信する側にも簡単にそして日常的になりうる。そのメリットとリスク、情報の見方と受け取り方を具体例を挙げて分かりやすく説明してくれる。

お客さまはぬいぐるみ 夢を届けるウナギトラベル物語

東園絵、斎藤真紀子 / 飛鳥新社



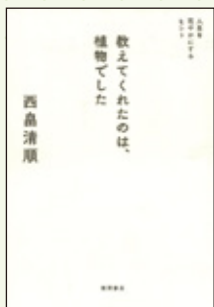
ぬいぐるみに旅をしてみようという発想を実際の事業にしたことにまず驚かされます。読み進めていくと、今度はだんだんとあたたかい気持ちになります。／ささやかだけど、笑顔になれる素敵な旅行会社。私もぜひ参加したいです。／小さき、弱き人とともに生きていくために自分に何ができるのかを考えさせられる。／こんな面白い会社があるんだ！そのぬいぐるみの旅行記を楽しむのもよし。発想の転換で、こんな仕事が生み出せるんだと感心するもよし。／ぬいぐるみを旅に連れて行くことで、誰かを少しだけ元気にする。こういう仕事、素敵だと思います。／ぬいぐるみの姿がいつの間にか自分の姿と重なり、勇気をもたらしてくれました。／10代の皆さんなら「馬鹿らしい」と思うかもしれませんが、でも世の中には様々な事情で旅行に行けない人がいて、会ったことのないその人たちに喜んでもらえる旅を企画するとすればこんなに大変な仕事はないと思います。／ぬいぐるみの旅行を通して、依頼者の心持が前向きに変わっていく。こんな会社もあるんだと、視野を広げて欲しい。

主夫になってはじめてわかった主婦のこと

中村 シュフ / 猿江商會



家事をしない人が家事をするようになって気がつくことがたくさん書いてある。読み物としても面白かったし、男女問わず、さらに先生方にもおすすめできる 1冊。／1人暮らしで家事をするのは違う、家族のために家事をやっている人のありがたさを少しでも感じてもらえたらいいと思います。「同じことを毎日繰り返すこと」がどんなにすごいことかに気づかされました。／主婦は楽だみたいなことを言う人がいるけど決してそんなことはない。孤独との闘いの感じが喜劇で書かれていて楽しんで読める。／「家事」という仕事についてこんなにわかりやすく書いた本はないのではないかなと思います。男子も女子も読んでほしいです。



教えてくれたのは、植物でした 人生を花やかにするヒント

西島 清順 / 徳間書店

シンプルで力強い自然の「生きる力」に触れて、何だか気持ちがスッキリした。／好きなものを追いかけ、そこから学ぶ生き方が魅力的です。／プラントハンターの著者が植物と人間の関わりから、日々の暮らしや仕事に役立つヒントを教えてください。／植物のプロである著者が得た人生のヒント。めずらしい木や花の写真とともに一節が短い文章で読みやすいフォトエッセイです。

ヘンな論文

サンキュータツオ / KADOKAWA / 角川学芸出版



／課題研究でチャレンジしてみたらおもしろいかも？／身近な(?)内容なので論文に対する苦手意識がなくなります。無駄な内容こそ意味があるんではいでしょうか。／好きなことがあるって強みだと思います。好きなことなら研究も苦ではないはずですから。みんなが同じことを研究していたら世の中は発展しません。ヘンな論文たちは世の中の視野を広げてくれている…かもしれません。／研究者たちはふざけているわけではない。大まじめなのが、かえってツッコミながら読めます。小論文の構成の参考(?)にもなるかも…。／世の中のあらゆる論文雑誌の中から、著者選りすぐりのヘンな論文を紹介。「浮気男」の頭の中、女子校→共学に変わったときの女子生徒の変化、湯たんぼ…。好奇心さえあれば何だって学問なのです。「でーれーBOOKS」にもユーモアを！

明日は、いずこの空の下

上橋 菜穂子 / 講談社



いつもの小説よりも少し力が抜けた親しみやすい文章とページ数なので、今までぶ厚さにしり込みしていた人に特におすすめです。表紙の絵が、著者のお父様の作品だったことにもびっくり。／心の持ち方、考え方ひとつで世界は変わる。上橋さんの目を通して描かれる世界の、なんと豊かなことか。／「知ること」「体験すること」の楽しさが伝わってきます。高校生に好奇心という翼に乗ってこれから未知の世界へ羽ばたいてほしい。／英語が苦手にもかわらず、17歳から海外へと行っている著者。そこが楽しくもあり、今のあの壮大なファンタジーが書けるのだと感じた一冊！現役高校生に是非読んでもらいたいです。／若い時の敏感な感受性は大人になってからの財産だと思う。／ずっと昔から人と作品とを知っていたように思うほど、著者の体験と作品との繋がりを感しました。身近な出来事に対しても豊かな感性を持ち続けたいと思わされます。

8年越しの花嫁 キミの目が覚めたなら

中原 尚志・麻衣 / 主婦の友社



岡山の方なので、身近な奇跡を知って命について感じてほしい。／愛、命、絆を感じられる実話。なんでもない毎日がどんなにありがたいたい日々なのかを感じてほしい。／メディアで頻繁に紹介されているようだけど、岡山県のことだし、もし知らない人がいるなら知らせたい…。というわけでエントリー。感動するノンフィクションは、本を手取る動機にもなるし。読者を限定せず薦められる1冊になると思う。

頂点への道

錦織 圭、秋山 英宏 / 文藝春秋



ここにきて、あの偉業を成し遂げた錦織圭選手!! 本当に素晴らしいことだと思いました。世界に立ち向かう姿勢を、この本から何かを感じ取って欲しいと思います。／試合中にこんなことを考えているのかと、アスリート魂に驚く。／スポーツをしている人はもちろん、そうでない人にも響く本じゃないでしょうか。世界で活躍する人は、練習量だけではなく、精神面も違うのだとわかります。／錦織選手のブログを再編したものが中心で、度重なるケガやプレッシャーなどをどのように乗り越え、どうテニスに向き合ってきたかがリアルに感じられます。テニス好きでなくても、一流選手の考え方に心が動かされる一冊。

